

令和5年度教育課程研究集会
小学校 特別の教科 道徳

「考え、議論する道徳」に向けた授業改善について

令和5年8月
奈良県教育委員会事務局
学ぶ力はぐくみ課 義務教育指導係
指導主事 仲川克子



道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

内容項目

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)
A 主として自分自身に関すること		
善悪の判断、自律、自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
正直、誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	(2) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。
節度、節制	(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	(3) 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。
希望と勇氣、努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5) 自分でやるうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
B 主として人との関わりに関すること		
親切、思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。
友情、信頼	(9) 友達と仲よくし、助け合うこと。	(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
相互理解、寛容		(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)
A 主として自分自身に関すること		
(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
(2) 誠実に、明るい心で生活すること。	(2) 誠実に、明るい心で生活すること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(3) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。
(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて奮闘にやり抜くこと。
(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。
B 主として人との関わりに関すること		
(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。	(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、偏見や差別も経験しながら人間関係を深めていくこと。
(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いるいるなもの見方や考え方が異なることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

各内容項目について、発達の段階に応じて指導する内容は、学習指導要領解説に示されている。

10 友情、信頼

〔第1学年及び第2学年〕

友達と仲よくし、助け合うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

〔中学校〕

〔友情、信頼〕

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、偏見や差別も経験しながら人間関係を深めていくこと。

友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。

(1) 内容項目の概要

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考えなどを交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。また、異性についても互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが必要である。

(2) 指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねるこ

とで、友達のよさをより強く感じるようになる。

指導に当たっては、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをしても、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていくようにする必要がある。

■ 第3学年及び第4学年

この段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。

指導に当たっては、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

■ 第5学年及び第6学年

この段階においては、これまで以上に友達の意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとする。また、流行などにも敏感になり、とすると趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上にみられるようになり、このことが不安な学校生活につながる状況もみられる。このことから、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

指導に当たっては、健全な友達関係を育てていくことが一層重要になる。この段階が第二次性徴期に入るため、異性に対する関心が強まり、これまでとは異なった感情を抱くようになる。この異性間の在り方も根本的には同性間におけるものと同様、互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよい関係を築こうとすることに配慮して指導することが大切である。

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

目的

道徳性の諸様相

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があることとされた行動をとろうとする傾向性

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

「考え、議論する道徳」に向けた授業改善の視点

主体的な学び

- ・ 問題意識をもつ
- ・ 自分自身との関わりで考える
- ・ 自らを振り返る 等

対話的な学び

- ・ 協働し、対話する
- ・ 多面的・多角的に考える
- ・ 学級経営の充実を図る 等

考え、議論する

手段

教員の指導の
明確な意図

深い学び

- ・ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ・ 問題解決的な学習
- ・ 道徳的行為に関する体験的な学習

道徳科の授業をどのように構想するか

指導の明確な意図とは…

ねらいとする道徳的価値（内容項目に含まれるもの）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。

ねらいとする道徳的価値について、日頃、どのような指導を行い、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で学ばせたいことを明らかにする。

授業者の意図、児童生徒の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにする。

道徳的
価値

児童生徒
の実態

教材の
活用

主題設定の理由

学習指導の多様な展開

手段

- (1) 多様な教材を生かした指導
- (2) 体験の生かし方を工夫した指導
- (3) 各教科等と関連をもたせた指導
- (4) 道徳科に生かす指導の工夫
 - ア 教材を提示する工夫
 - イ 発問の工夫
 - ウ 話合いの工夫
 - エ 書く活動の工夫
 - オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫
 - カ 板書を生かす工夫
 - キ 説話の工夫

道徳科においてICTを活用する際のポイント

道徳科の学習指導過程におけるICT活用例

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	<ul style="list-style-type: none">・ 実態や問題を知る。	<ul style="list-style-type: none">・ 道徳的価値について、問題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・ 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	<ul style="list-style-type: none">・ 教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none">・ 自分自身との関わりで考える。・ 多面的・多角的に考える。・ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。	<ul style="list-style-type: none">・ 教材の提示 (画像や映像等)・ 自分の考えをもつ (ICT端末に示す)・ 他者の考えを知る (ICT端末で共有する) (表やグラフ等)・ 話し合う(直接的な対話)・ 自己を見つめる (ICT端末に蓄積する)
終末	<ul style="list-style-type: none">・ よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	<ul style="list-style-type: none">・ 道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none">・ 生活の様子への提示 (画像や映像等)・ 外部の方の言葉への提示 (画像や映像等)

おわりに

- ・ 道徳教育と道徳科のつながりを明らかにした指導
- ・ 道徳科の特質を踏まえた指導
- ・ 道徳科のねらいを踏まえ、道徳科の授業で、児童生徒に何について考えさせ、何に気付かせたいのかを明確にもつこと。
- ・ 指導過程や指導方法、教材・教具等の工夫は、目的ではなく手段であることを認識すること。

